

## 編集後記

第 27 巻 2 号をお届けします。本誌の報告欄にもありますように、年末にはハワイで環太平洋国際化学会議 (Pacifichem 2010) が開催され、Advances in Flow-based Analytical Techniques のシンポジウムのコ・オガナイザーを務めさせていただきましたので、編集作業が遅くなり、本号の発行が大変遅れてしまい、申し訳ありませんでした。

さて、巻頭言にはオーストラリアのメルボルン大学の Kolev 先生にご寄稿いただきました。同氏は 2010 年度のフローインジェクション分析研究懇談会の学術賞の受賞者でもあります。Flow Analysis on Paper というタイトルで巻頭言をご寄稿いただきました。フローインジェクション分析法は従来テフロンチューブなどを接続してチューブ内での反応が利用されていますが、近年、分析のマイクロ化が盛んに研究されるようになり、小さいガラス製やプラスチック製の板状のチップの上に細い溝を作製して、その中で反応など行わせて分析する方法が盛んに研究されています。最近では、ガラスやプラスチックの代わりに紙を利用して流れ分析を行う方法が報告され、Kolev 先生はこの利点をおおいに強調されています。解決すべき点も多々あるようで、大いにこの分野の研究の発展が期待されます。

ミニレビュー欄には、静岡福祉大学の石井幹太先生にご寄稿をいただきました。同氏がこれまでの医学、工学、福祉というさまざまな科学分野の見地から FIA 法に取り組み、それらの成果をそれぞれのトピックごとにまとめていただいたものです。FIA 法の応用の広さを感じるとともに、さらなる異分野への発展を期待しております。

横浜国大の中村栄子先生には、「流れ分析法の規格化の現状」というタイトルで、ご寄稿いただきました。中村先生にはこれまで長年にわたって JIS

に携わられ、本年 9 月に幕張で行われましたセパレーションサイエンス (SS) 2010 で特別講演をしていただきましたのを機会におまとめいただいたものです。

研究論文の欄には、今回は国外から 4 報と国内から 2 報の合計 6 報の論文が投稿されました。次号にも会員の皆様からのたくさんのご投稿をお待ちしております。

トピックス欄には横浜国大の大学院の学生の庄司貴氏にご寄稿いただきました。前出の中村先生と共著論文が本年度の論文賞に選定されています。ガス拡散分析を FIA 法に应用する場合は、平膜やチューブ状のテフロン膜などを利用するものが報告されてきましたが、膜を用いない興味深い手法も紹介されています。

報告の欄には前出の SS2010 の機会に開催されました FIA 講習会に参加されました横浜国大の尾崎成子さんに報告記をご寄稿いただきました。また、本年 12 月 19 日～20 日に開催されましたハワイでのシンポジウムの報告記を Gary Christian 教授と熊本大学の大平慎一氏にご寄稿いただきました。日本側からは、田中 (徳島大学)、塚越 (同志社大学)、酒井、手嶋 (愛知工業大学)、本水 (岡山大学)、長岡 (大阪府立大学)、戸田 (熊本大学)、小熊 (千葉大学)、佐藤 (神奈川工科大学)、板橋 (群馬大学) (敬称略) の 10 名の先生方には招待講演としてご講演をいただいた。お礼申し上げます。

お知らせの欄にありますように、17 回 ICFA がポーランドの Krakow で開催されます。奮ってご参加いただければ幸いです。

今後ともこの会誌が本会員の皆様方の情報交換の場になることを希望しております。ご寄稿をお待ちしております。

JFIA 編集委員長  
今任稔彦